

# 夏の庭

原作／湯本香樹実  
演出／ふじたあさや  
美術／矢羽田輝伸  
音響／山北史郎  
制作／上保節子

脚色／久野由美  
音楽／佐藤容子  
照明／坂本義美  
衣装／山土井志麻

「人が死ぬってどういうこと?」ある夏、少年たちが見たものは?!

夜空を焦がす生命の煌き!

「死んだ人って見たことある?」

奇妙な夏休みは、山下のそんな言葉から始まった。木山と河辺は息をのんだ。山下はお祖母さんの葬式に行ってきたのだ。

「人は死んだらどうなるんだろう」

「死ぬときはどんなことを思うんだろう」

疑問は、つきつきと湧いてきた。

「いいことがある。あそこの家に、今にも死にそうなじいさんがいるだろう。あいつが死ぬのを見届けろんだ」

一人住まいのその老人は、夏だというのにこたつに入り、一日中テレビばかり見ている。外に出るのは三日に一度、コンビニへ弁当や缶詰を買いに行くときだけ。誰とも口をきかず、たった一人で暮らしている。

見張りを続けているうちに、三人は、いつしか老人に見られていることに気づく。そして、老人と同じ時間を共有するようになった三人が見たものは?

少年たちは  
老人を見張り始める

おじいさんと3人に  
奇妙な友情が生まれる

おじいさんの家の庭に  
コスモスの種をまく

## ● 上演にあたって ●

湯本香樹実さんの原作は、日本だけでなく10カ国以上の国で大勢の人たちに読まれ、日本では日本児童文学者協会新人賞、児童文芸新人賞を、アメリカではボストン・グローブ＝ホーン・ブック賞、パチェルター賞を受賞し、映画化もされています。舞台化にあたり、老人と少年達の交流を清々しく描いた原作を生かし、ご覧になるみなさんと一緒に、「生きていくこと」を考えていきたいと思っています。

劇団創立70余年。浜組、松組、風組の3班に分かれ全国の小・中学校の演劇教室を中心に活動しています。